

今日のトピック IMFの世界経済見通し(2014年10月) 世界経済の見通しを小幅に下方修正

ポイント1 見通しを小幅に下方修正

緩やかに加速する見通しは維持

- IMFは7日、2014年と2015年の世界経済見通しを発表し、前回7月から小幅に下方修正しました。
- 政府・民間部門における過剰債務や高水準の失業といった金融危機の後遺症が残ることに加え、潜在成長率の低下が将来への信頼に影響していることを主な理由として指摘しました。
- 2014年、2015年ともに小幅に下方修正されましたが、来年に向けて景気が加速するとの見通しは維持されました。

ポイント2 国ごとのばらつきが拡大

米国・インドは上方修正

- 上方修正された主な国は、先進国では米国、新興国では政策効果が見込まれるインドです。中国は見通しが据え置かれました。
- 一方、ユーロ圏、日本、ブラジル、ロシアが下方修正され、国・地域ごとの成長率見通しのばらつきが拡大しました。日本は消費税増税の影響により、今年の成長が下振れましたが来年は消費が回復し安定するとしています。

IMFの世界経済見通し(10月) (%)

	2014年		2015年	
	成長率	修正幅	成長率	修正幅
世界全体	3.3	▲0.1	3.8	▲0.2
先進国・地域	1.8	0.0	2.3	▲0.1
日本	0.9	▲0.7	0.8	▲0.2
米国	2.2	0.5	3.1	0.0
ユーロ圏	0.8	▲0.3	1.3	▲0.2
ドイツ	1.4	▲0.5	1.5	▲0.2
新興国・地域	4.4	▲0.1	5.0	▲0.2
中国	7.4	0.0	7.1	0.0
アセアン	4.7	0.1	5.4	▲0.2
インド	5.6	0.2	6.4	0.0
ブラジル	0.3	▲1.0	1.4	▲0.6
ロシア	0.2	0.0	0.5	▲0.5

(注1) 上記アセアンはタイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、ベトナムの5カ国。

(注2) 修正幅は前回7月の見通しからの変化幅。

(出所) IMFの発表を基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 公共インフラ投資の拡大などによる潜在成長率の引き上げが課題

- IMFは今回、経済の下振れリスクを3点挙げ、前回よりもリスクが増しているとの認識を示しました。一つ目に、低金利の長期化により、金融市場の先行きが楽観視されすぎている可能性を指摘し、政策担当者に警戒を促しました。二つ目は地政学リスクが一段と増していること、三つ目はユーロ圏経済が失速しデフレに陥る可能性です。
- IMFは、低成長という課題に対処するために、金融緩和と低金利環境の継続による、潜在成長率の引き上げが必要としています。
- 潜在成長率の引き上げのための政策として、先進国・地域では公共インフラへの投資拡大、イノベーション強化のための規制緩和、新興国・地域では構造改革(電力不足解消、貿易の制限緩和、労働市場の改善など)を提言しています。

ここも チェック!

2014年10月08日【キーワード No.1,429】潜在成長率(日本)

2014年10月02日【デイリー No.1,961】世界の「投信マネー」(2014年9月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。